



田園のまち・筑前町
豊かな田園地帯が広がる筑前町。古くから米・麦・大豆を中心とした農業が盛んで、毎年麦秋の季節(初夏ごろ)には黄金に実った麦が雄大に広がる風景を眺めることができる



筑前町ファーマーズマーケット みなみの里
地元生産者が作る米や大豆、旬の野菜、果物、加工品などを販売。黒大豆「筑前クロダマル」の餡が入った名物「ごえん餅」の焼きたてを店頭で味わえる



おおなむち 大己貴神社
地元では「おんがさま」と呼ばれ、親しまれている神社。毎年10月23日には約800年続く秋の大祭「おくんち」が行われ、神幸行列や舞が奉納される



はなたてやま 花立山温泉
高台からの眺めも楽しめる掛け流しの天然温泉。駐車場から入口まで無料スロープカーを運行。近くには国指定史跡の焼ノ峠古墳もある



やぶこころげん 夜須高原記念の森
森林浴やウオークラリーが楽しめる施設。針・広葉樹林、遊具のある風の広場、溪流園など、自然の中の憩いのスポットとして人気

きらめきマイタウン



筑前町



筑前町立大刀洗平和記念館
戦前、西日本における航空拠点であった大刀洗飛行場。多くの特攻隊員を送り出し、また空襲により多くの人の命が失われたこの地に、平成21年、平和の尊さを伝える記念館が設立された。写真は、世界で唯一現存する九七式戦闘機

筑前町

■問い合わせ
筑前町役場
朝倉郡筑前町篠隈373
☎0946-42-3111
<http://www.town.chikuzen.fukuoka.jp/>

筑紫平野の北部に位置する筑前町は、平成17年3月に旧三輪町と旧夜須町の合併により誕生しました。

豊かな平野を生かした米・麦・大豆作りなどが盛んな農業地帯として知られています。

近年は黒大豆や小麦の新たなブランドを確立し、平成23年には「ちくぜん食の都づくり宣言」を行うなど、「食」による町おこしに力を注いでいます。

また、戦時中に旧陸軍の大刀洗飛行場があった歴史を踏まえ、町立大刀洗平和記念館を中心に平和の大切さ、命の尊さを伝え続けています。

こころつなぐ
食と平和のまち

筑前町立大刀洗平和記念館 朗読部会

平和の尊さを
今に伝える
祈りの朗読



竹中圭子さん(写真中央)ら朗読部会の皆さん

大刀洗陸軍飛行場があった筑前町周辺は、かつて空襲で1000人以上の命が失われた場所。平成21年に「大刀洗平和記念館」が開館する際、「心に届く朗読会をしてほしい」という町からの要望に応えたのが、地元出身で朗読ボランティア歴30年の竹中圭子さんでした。

以前から人権に関する朗読とピアノ演奏の活動を行っていたメンバーを中心とする



①毎年、記念館が開催している「ピースキャンドル」でも慰霊の朗読を行っている ②朗読者、副朗読者、伴奏者の3人が1組となり、絵本や体験談を読み聞かせる

36人が、1日平均2回の朗読を分担して行っています。

「修学旅行などで訪れる若い人が、感動した、来てよかった」と言ってくれれば、平和への思いが伝わっていくようにと、竹中さん。

館外でのイベント出演を含め、年間数多くの活動を通じて、戦争を知らない世代に平和と命の尊さを伝え続けていきます。

筑前 麦プロジェクト

地域の恵み
自慢の小麦で
町おこし



「筑前麦プロジェクト」の皆さん。左から委員長の日永田保徳さん、筑前町商工会の角田晋一さん、副委員長で、町内でうどん店「味由」を営む大津正之さん

平成23年に県内有数の小麦の産地である筑前町で発足した「筑前麦プロジェクト」。きっかけは、中華料理店「永徳酒家」を営む委員長の日永田保徳さんの「店の裏手に広がる畑の小麦を商品にできないか」という思いからでした。

ら、町内の飲食店・洋菓子店、直売所など17カ所販売したところ、これまでに累計7000個が売れました。「価格は一般的な小麦よりも高いのですが、視察が増えるなど注目も高まっており、地元小麦粉に価値を見いだす人が増えていけると感じます」と、筑前町商工会の角田晋一さん。小麦を活用した新たな町おこしの可能性に未来を見つめます。



①町に広がる小麦畑 ②平成24年6月に商品化された中薄力粉「筑前麦太郎」(500g300円)、強力粉「筑前麦夏ちゃん」(500g350円) ③町内のうどん店「味由」の筑前麦太郎を使ったうどん。コシが強くもちりとした食感が、今年7月に発売されたミシュランガイドでも評価された



きらめきマイタウン

筑前町

日向ひよっこみわ愛好会

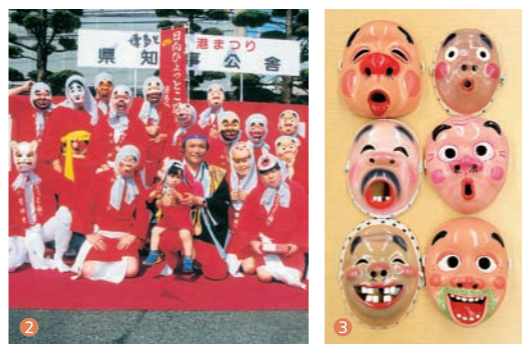
ユーモラスな
踊りと笑いで
人を笑顔に



「日向ひよっこみわ愛好会」会長の桑野純子さん(左)と大川内隆博さん(右)

「ひよっこ踊り」は、法被に豆絞り、一人一人異なるお面を付けた一行が輪になって踊る宮崎・日向で盛んな伝統芸能。平成7年に発足した「日向ひよっこみわ愛好会」

は、会長の桑野純子さんを中心とする10人ほどのメンバーでスタート。今では、30代から70代まで男女38人が踊り、見る人を楽しませています。「慰問、敬老会、運動会……ここに呼ばれても笑いがあふれ



①建築家、経営者、社会福祉士などさまざまな業種の人々が踊る。中には夫婦で参加する人も ②博多どんたくにも毎年参加。小川知事と一緒に ③顔も表情もさまざまなお面が笑いを誘う

て、踊る側も見る側もストレス解消になるんです。3年間おばあちゃんが笑ってくれた時はうれしかったです」と、桑野さんはほほ笑みます。

持ち前の明るさとチームワークで、日向で開かれる全国大会では毎年上位に入賞。今年8月には、念願の団体1位に輝きました。さまざまな場所で、笑顔の花を咲かせています。

筑前町クロダマル生産組合

新たな特産品
黒大豆で
町を元気に



代表の興膳清治さん(写真左上)ほか「筑前町クロダマル生産組合」の皆さん

10年ほど前に熊本で生まれた黒大豆の品種クロダマル。もともと大豆の産地である筑前町の新しい特産品にしよると、立ち上がったのが「筑前町クロダマル生産組合」です。6年前、20kgの種から始めた栽培も、今年は30トンの生産を見込めるまでに成長。最初は3人だった組合メンバーも、今では30代から70代まで23人に増えました。

「町内の学校では、授業で栽培したり、給食のおかずに使われたりと、クロダマルは食育に取り入れられていますよ」と、代表の興膳清治さん。今後は食品だけでなく、化粧品の開発なども視野に入れ、生産拡大に励みます。



①濃厚な味とコクが特徴のクロダマル ②さまざまな加工品。中でも、副代表の品川さんが考案したドレッシングは年間約5000本もの売れ行き ③人気の枝豆は10月中旬に旬を迎える